

言葉辞典

恵

目次

【言葉辞典】

『ア行』	5
「味」「二時」「嘘」「映画」「置土産」		
『カ行』	11
「仮定」「偽善」「空想」「激励」「考察」		
『サ行』	19
「悟り」「自制」「全て」「生活」「空」		

『夕行』
.....
25

「大嫌い」「超能力」「強さ」「伝達」「時々」

『ナ行』
.....
31

「謎」「任務」「濡れ衣」「猫」「能天気」

『ハ行』
.....
36

「敗者」「引き金」「負担」「ヘテロ」「放屁」

『マ行』
.....
43

「街中」「身勝手」「夢想」「鍍金」「物差し」

『ヤ行』
.....
49

「闇」「浴衣」「夜」

『ラ行』

.....

53

「乱反射」「輪廻」「流浪」「冷凍」「論難」

『ワ行』

.....

58

「私」「を廻」「ンジャメナ」

『ア行』

「味」

たこ焼き器？ それがどないしてんや
別にあつたかつて 何も可笑しいやん

大体 そつちとは味覚が違うねんって
あのうどん 濃すぎて飲めたもんやない
口つけただけで 体が受け付けへんわ

ほんまは 日本食って薄味やねんって
何であないにも 濃いなくてもうたんや
あんなもん 田舎もんの食いもんやん

お好み焼き定食？ 何が可笑しいねん
そんなもん こっち来たら当たり前やん

食つとるんやから
不思議やないやん

「一時」

何も出来ない僕は、ただ海を見つめてるよ。

君の泣き顔の訳、こんな僕でも分かるよ。

でも悔しいことに、どうしようもないんだ。

僕は後戻り出来ないし、君も望んでない。

こうなることは、初めから分かってたんだ。

今でも僕は君のこと、愛しく思ってるよ。

でも運命の歯車は、すでに回り始めたんだ。

誰にも止められないし、止める気もない。

だから笑って、僕を送り出して欲しいんだ。

君が泣き止むまで、僕は海を見つめてるよ。

「嘘」

唯一つの真実 それを飾る嘘

言葉は止めどもなく 溢れ始める

真実はここにある 分かって欲しい

決定的な言葉 それを隠す嘘

心は見せられない 形のないもの

言葉は遠ざかる 本心は伝わらない

変わらない心 それを騙す嘘

心と言葉が一致しない 認めない

言動は狂い出す 全く伝えられない

「映画」

私が欲しいのは フランス映画みたいな恋
凶暴な愛情の涯てに 訪れるサイレンス
破滅しなくても 身も心も溺れてみたい

私が嫌いなのは アメリカ映画みたいな恋
最後には必ず 決まってハッピーエンド
美しすぎる恋愛には 付き合ってもらえない

私が選んだのは イタリア映画みたいな恋
生きるのが楽しくなる 陽気なバカンス
思うよりも 世の中は捨てたものでもない
映画みたいな恋を いつも私は夢に見てた

「置土産」

考えても分からないこと 考えても仕方ない

今日もまた 貴方の言葉に私は救われました
この言葉があるので 頑張ろうと思えます

貴方の遺してくれた言葉は 私のお守りです

色々なことが あの時から私にもありました
でも貴方の言葉で 何とか乗り超えました
私にとって この言葉は生きてゆく指針です

考えても分からないこと 考えても仕方ない

そう言って貴方は 私に向かって笑いました
私を勇気づけようと 微笑んでくれました
後に残る私に この言葉を置いて逝きました

『カ行』

「仮定」

例えばの話 僕が君で・・・
君が僕だとしたら そんな話

きつと僕は 君が嫌い・・・
その訳は 君が我儘すぎるから
度を越えた 言いたい放題で
僕のことなんて 何も考えない

きつと僕は 君が憎い・・・
その訳は 君が冷たすぎるから
酷いくらいに 愛想がなくて
僕のことなんて 目に入らない

例えばの話 君が僕で・・・
僕が君だとしたら そんな話

きっと僕は 君とは関わらない

「偽善」

誰かの犠牲になることを 私は夢見てる

それは美德ではなく 単なる私の欲望

誰かに必要とされたい 密やかな自己愛
こんなこと 見透かされてはならない

誰かに感謝されることを 私は望んでる

これも美談ではなく 単なる私の欲求

誰かに喜んで貰いたい 後暗い自己満足
目に見えるほどには 奇麗事ではない

誰かに褒められることを 私は欲してる

「空想」

少しだけ、私の夢の話に付き合っ
てね。君を騙すつもりは、本当
にないから。今だけは、黙っ
て聞いててちょうだい。

君も私を見て、ホラ吹きと思
うかしら？出来ないことを、
言い続けてるって。別にそれ
でも、私は怒る気はないわよ。

目を逸らさずに、ちゃんと聞
いてよね。私は君のこと、マ
トモと思ったのよ。他の人た
ちとは、君は違うと感じたの。

正直いって、どんなふうにか
考えてるの？今のままでは、
どう転んでも駄目ね。それ
くらい、君なら気付いてるはずよ。

15 言葉辞典

不可能なんてのは、臆病者のセリフね。
それで全てを、お終いにする気なの。
空想も実行すれば、現実が変わるのよ。

現実と空想の境界線、濃いと思ってた？

「激励」

機嫌が悪いからって、私に当たらないで。他の人は知らないけど、私は嬉しくないわ。君の弱さなんて、見たいとは思わないの。どんなときも、余裕の表情をしてみせてよ。

子ども扱いすると、君は怒るのでしょうか？それなら、私の前で平気なふりをしていて、甘えを見せたいなら、私では駄目なのよ。私は容赦もなく、君のことを見捨てるわよ。

君にも初めから、分かっていたでしよう？私は強い君だけにしか、興味なんてないの。それが嫌なら、私の前から消え去ってよ。私には未練なんて、これっぽちもないわよ。

17 言葉辞典

落ち込んでいても、私に甘えてこないで。
君を慰める気なんて、私には全くないわよ。
逃げ込む場所を、君は間違っているのよ。
そんなに私は、優しくなんてなる気ないわ。

「考察」

貴方にとって 約束って何ですか？

約束をするのは とても楽しいよ
待っているときに 楽しいよね

約束があるから 私は幸せになれる

約束なんて しないほうがいいよ
実現しないとき 哀しいからね

約束のせいで 僕は落ち込み始める

約束って 一時しのぎの方便だよ
果たすかどうかは 気分だよね

約束のおかげで 何とか逃げ出せる

貴方にとって 約束って何ですか？

『サ行』

「悟り」

私がいてもいなくても 何も変わらない

彼女はそう言つて 姿を晦ましました
ある意味それは 間違いではありません
彼女がいない それだけのことでした

愚かな考え方だと 果たして笑えますか

一人の存在は ちっぽけなものです
そのことに彼女は 気付いたのでしょう
迷える人たちに 彼女からの言葉です

誰がいてもいなくても 地球は回つてる

「自制」

僕って馬鹿だよな 君を好きなんだから
でも言えないよ 君は結婚したんだし

いつから僕は 君のこと好きなんだろう
考えてみたけど もう思い出せないよ
今更もう そんなことどうでもいいけど

でも僕は 少しだけけど嬉しいんだよ
君の僕への態度は 全く変わらないね
多分きつと 気付いてると思うんだけど

後悔なんてしてないよ 君を好きなこと
でも言えないよ 君は人妻なんだから

口を閉ざして 心の中だけで思ってるよ

21 言葉辞典

「全て」

貴方の髪 貴方の指先

少しだけ翳のある 貴方の顔

笑うと出来る 目じりの皺

貴方の眼 貴方の喉元

少し丸まつてる 貴方の背中

笑うと目立つ 不揃いの歯

そんな全て ひっくるめて

貴方のことを 好きでいます

「生活」

毎日の生活に 嫌気がさしてきてる

何の変哲もない 繰り返しの時間

心に残るものには 何一つ出合わない

歳をとるたび 自分の枠を作ってる

望みもしないのに 連続する時間

嬉しく感じるものが 万に一つもない

刺激を捜し求めて 街を彷徨ってる

でも結局は たどるのは同じ場所

新しい何かなんて 見つかる訳もない

今までの生活は 容易に変えれない

何時の間にか 沁みついてた感覚

このまま 時は刻みゆくかもしれない

23 言葉辞典

毎日の生活は 単調なまま続いてく

「空」

浮雲が流れて行く

僕の思い通りの場所に
時にカーブを描いて
緩やかに所定の位置へ

君のことを考える

記憶の中で僕は彷徨う

僕は眼を閉じ微笑む

空に君の顔が出来てた

君の顔が思い浮んだ

『夕行』

「大嫌い」

私は君のことが大嫌い 本当のことよ
繰り返すけど大嫌い 顔も見たくもない

私は泣いてなんてない 君の目の錯覚
涙を流す理由なんて あるはずもないわ
勘違いしないで ふられるのは君なの

君も泣いてなんてない 私の眼の錯覚
涙を流す別れなんて 私の好みじゃない
そんな眼で 私のことを見つめないで

私は君のことが大嫌い 嘘じゃないわ
大好きだけど大嫌い 傍にはいられない

私を忘れて
君は夢を追い続けていて

「超能力」

君の考えることなら、何でも分かるのよ。

僕の顔を指差して、君は盛大に笑った。

君に見透かされるのも、悪くはない気分。
可笑しくて、君につられて僕も笑った。

君は自分には、超能力があると言った。

僕の考えが分かるのは、それは特別な力。
大真面目に、僕に向かって言い放った。

仕掛けなんて、何処を探してもないわよ。

「強さ」

振り返らずに、手を振って去って行った。
小さくなる背中に、私は馬鹿と呟いた。

貴方の言葉を、ただ逆らわず受け止めた。

涙が止め処なく、頬を伝わり落ちてゆく。
彼女の顔を、僕は見たくても見れない。

どうしてこんなに、弱くなつたんだろう。

別れを迎えるたびに、僕は迷い苦悩する。
本当に良いのか、全く自信を持ってない。

どうやって彼女は、強くなれたんだろう。

振り返らずに、手を振って去って行った。
涙を堪えて、私はタバコに火を点けた。

行き交う人に、弱さを見せたくなかった。

「伝達」

悲しかったから 涙を流してみせた
そうでもしないと 気付いて貰えない

私は喜怒哀楽が うまく表現できない
当たり前のことを 難しく感じてる
こんな苦勞は 他人はしないのだろう

私の感情と表現は うまく一致しない
馬鹿らしいけれども 努力し続ける
こんな苦勞を 何時までするのだろう

腹が立ってたので 怒鳴ってみせた
そうしてやっと 君に気付いて貰えた

「時々」

時々でいいので、私を思い出して下さい。
忘れないでなんて、高望みはしません。

私も貴方を、時々にしかり思い出せません。

思い出したときには、私に電話を下さい。
それだけで私は、十分に満足できます。

貴方との思い出を、懐かしく楽しみます。

私のことは忘れても、憶えていて下さい。
いつも側に、誰かいたということです。

幸せなクリスマスは、確かにありました。

私も時々、貴方のことを思い出します。

『ナ行』

「謎」

君に側にいてもらいたい
切実に僕は願っている
君と一緒に笑っていたい

必要だと言って欲しい
君がいるだけで僕は幸せ
僕の隣に君の席はある

いつも僕は君に会いたい
君の登場を待っている
でも君が誰か分からない
僕には謎は解けられない

「任務」

ホットになるなよ　クールにいこうよ

彼女は気が短い　呆れ返るくらいに

いつも僕は側にいて　彼女を宥める役

彼女を抱き締めて　落ち着かせてる

僕が止めないと　彼女は危なっかしい

彼は勘違いしてる　全く気付かない

私が怒ってみせるのは　ブレーキの役

彼が暴発しないよう　先に暴れてる

いつも私は密かに　心の中で呟いてる

熱くならないで　もつと冷静になつて

「濡れ衣」

そうじゃない 私じゃない
どうして 信じてくれないの

そんなにも 信用がないの

私じゃないの 本当なのよ
一つも嘘なんて ついてない

私なんて そんなものなの

そうじゃない 嘘じゃない
私の言葉は 今も通じないの

「猫」

昔から、僕は猫になつかれる。

似たもの同士だからと、君は笑う。
自分勝手なところが、そっくりと。

いつまでも、抱きしめてたい。

君は笑いながら、僕に問いかける。
私は猫と同じなのと、また笑う。

そんなに、熱く見つめないで。

僕の視線に、いつも君ははにかむ。
子猫のように、愛らしい表情で。

「能天気」

明日の来ない・・・今日はないんだ！

啞然とした僕に 君は嫣然と微笑む

君は本当に 正真正銘のビックリ箱だ

僕は弾けたように 大笑いしていた

君は突拍子もなく 僕を驚かせる

愉快で楽しくて 君から眼が離せない

何の前触れもなく 目の前が開けた

当たり前のことなのに 何処か違う

君が口にする 言葉に魔力がかかる

笑いながら 悪くないと思っていた

そう・・・明日の来ない今日はない！

『八行』

「敗者」

未来を考えるのは止めた
精一杯に今を生きよう
生きる術はそれしかない

敗者で居続けるのは辛い
負け惜しみは言えない
本当の痛みを知ったから

偽善者は明るく言い放つ
何時か良い時も来るさ
悪いことばかり続かない

世の中そんなに甘くない

37 言葉辞典

悪いことは延々と続く
過ぎ去るのを待つ他ない

未来を夢見るのは止めた

「引き金」

もしも、拳銃を手にしたならば・・・
引いてみたいと、貴方は思いませんか？

七年前、僕は拳銃を手に取りました。
違法なのは、もちろん知っていました。
でも選択の余地は、僕にありません。
言われるままに、握り締めていました。

あの感触は、今でも忘れられません。
見てはいけないものを、見ていました。
現実なのに、遠くに感じていました。
引き金を、引きたいと思っていました。

もしも、拳銃を手にしたならば・・・
引いてみたいと、貴方は思いませんか？

「負担」

「どうしてなの？ 私では駄目なの？」

貴女の言葉は 今の僕には辛くて苦しい
僕が悪いのであって 貴女は悪くない
ただ僕の問題で 自責は必要なんてない

今までの貴女の事情は 僕も分かっている
僕に依存してても 何の解決もしない
心の痛みは 僕では癒すことが出来ない

僕が急に逃げ出すのは 卑怯と想ってる
貴女が考えてるほど 僕は強くない
他人を支え切るなんて 僕は覚悟がない

「僕では駄目だ 同じことを繰り返す」

「ヘテロ」

私は女だから、君とは感じ方が違うのよ。駄々をこねないで、いい大人でしよう？

君と一緒にいる時間、長くなつたわよね。でも何でも話せる、そんな訳はないの。

君にだって、秘密くらいはあるでしょう？

残念なんだけど、感じ方の違いはあるの。分かり合えないことも、仕方ないのよ。

それくらい、君にも分かつてるでしょう？

女って一度に、色々なことが出来るのよ。だから時々、君と話が噛み合わないの。

君は一つのことしか、出来ないでしょう？

41 言葉辞典

君は男だから、私とは感じ方が違うのよ。
それで二人、終わりはしないでしょう？

これは好き嫌いとは、別次元の問題なの。

「放屁」

おならするのって、気持ちいいよね。

でもこんなこと、人には話せない。

僕が言いたいのは、放出する脱力感。体から余分なものを、捨てる感じ。

おならの出具合で、気分も変わる。

潔く出てくれたなら、すっきり爽快。そうでなければ、何だかアンダー。

便秘のときは、僕は不機嫌になる。

お腹の中に、毒ガスが溜まる不快感。それが出たなら、晴れやかな感じ。

やっぱり、おならは気持ちがいいや。

『マ行』

「街中」

街中に氾濫する 前向きなだけの歌詞
硝子に映った私は 苦笑いを浮かべてた

こんな音楽が もて囃される世間なんて
何かが狂ってる そうとしか思えない
意志の力は 誰かに言われるものではない

弱い人たちが 勇気づけられたと喜んで
目に涙を浮かべて 歌を有難がってる
それが可笑しいとは 誰も気付いていない

まやかしの歌は 否応もなく人を騙して
踊らされた人たちが 街を闊歩してる

誰も彼もが 同じ顔に見えても仕方がない

街中に流れる 煽り立てるだけの歌詞

私は首を振って 雑踏の中を抜け出した

45 言葉辞典

「身勝手」

僕は君のことが 気に入ったんだ
訳は色々あるけど 教えてあげない
知りたければ 僕の側にいなよ
そのうち きつと話してあげるよ

君は僕のこと そんなに嫌いかい
僕の方は 君のこと大好きなんだよ
難しい話は もう止めとこうよ

今の時間は 二度とはないんだよ
何も考えないで 一緒にいないかい
楽しいことだけを 考えようよ
この一瞬を 永遠に変えないかい
身勝手だけど 君が大好きだからさ

「夢想」

じゃれてくる君が、いつも鬱陶しかった。

ネクタイを緩めながら、ドアに鍵を挿す。
蛍光灯を点けて、カバンを放り投げる。
椅子の背もたれに、ジャケットを掛ける。
コンビニで買ってきた、幕の内を食う。

喧しい目覚ましを止めて、布団から出る。
満員電車に揺られて、仕事場に向かう。
パソコンの電源を入れ、資料を作成する。
面倒くさい得意先に、営業へ出かける。

じゃれてきた君に、無性に会いたかった。

「鍍金」

何も分かってないのに、分かった振りをする。精一杯の見栄を張り、偉そうに虚勢を張る。思考は混乱して、言葉も空しく中に舞い散る。

滑稽な姿なんて、目にしたくはなかった。

勝手な言い分だと、自分でも気が付いてる。

それでも取り繕って、立派でいて欲しかった。

次から次へと露呈してく、人としての小ささ。自分の身を案じて、文句ばかりが口をつく。

愚痴は言っても、結局は権威に否応なく従う。

愚かしい姿は、見せて貰いたくなかった。

本を糺せば、自分のせいだとは分かっている。

できれば頑ななまま、突き放して欲しかった。

「物差し」

私は太ってる 誰が何と言おうとも
他人の言葉なんて 信じれる訳がない
標準体重なんて 嘘に決まってるわ

ぽっちゃりの方が可愛い それは嘘
信じる気なんて これぽっちもないわ
慰めなんて そんなの望んでないの

鏡に映る自分 目を背けたくなる姿
強迫観念なんて そんなものないわよ
ただ事実を ありのままに見てるの

私は太ってる 誰が何と言おうとも
痩せないことには どうにもならない
貴方の物差しは きつと狂ってるわ

『ヤ行』

「闇」

眼を閉じてると 闇に堕ちてゆく
何もない世界 五感だけが冴え渡る
空も地も 見渡す限り無限の暗闇
僕の存在さえも 今では怪しくなる

足を踏み出すと 闇に溶けてゆく
限らない世界 息吹だけが聞こえる
把握さえも出来ない 時間の感覚
僕は祈るように 今でも光を求め

声を出し叫ぶと 闇が崩れてゆく
果てしのない世界 鼓動が響いてる
曖昧模糊と思われる 未来の光景

在るべき姿は 闇の向こうに見えた

「浴衣」

夏祭りの夜 二人で誓い合った
来年も再来年も 一緒にいようね

箆笥の奥に 思い出の品が眠る

あの言葉には 嘘はなかった

実現しなくても 偽りはなかった

約束なんて 実現の保証はない

そのことは私も 分かった

恋愛過程の言葉に 嘘はなかった

浅葱の浴衣 二人で買い揃えた

去年と一昨年は 一緒にいたよね

「夜」

「明日、目覚めてから泣こう」と思った。

悲しくて泣きたくて、どうしようもない。でも何故だか、涙は出てきてくれない。

一人きりの部屋で、私は遣る瀬なく沈む。

「今日、目を閉じて考えよう」と思った。

惨めで自分が哀れで、どうしようもない。でも奇妙にも、不幸せを楽しんでいる。

暗い部屋の片隅で、独りで途方に暮れる。

「明日、目が覚めたら笑おう」と思った。

『ラ行』

「乱反射」

午前五時 或る夏の日の出来事
僕はこの目に 光る粒子を捉えた
それは乱反射する 美しいもの
手に取ることは 絶対に出来ない

薄明かりの街 人気のない公園
僕の目は 見えないものも見えた
常に乱反射する 輝かしいもの
君にあげることは 僕に出来ない

午前五時 或る夏の日の出来事

「輪廻」

貴女は本当に、信じているのですか？

残念ですが、私は信じてはいません。

真実としても、何の意味がありますか？

今を生きるのに、それは必要ですか？

残念ですが、私には理解できません。

来世を信じて、何の得があるのですか？

そんなにも、切実に願いたいのですか？

残念なのですが、私は分かりません。

この記憶を、貴女は残したいのですか？

「流浪」

本当は 望んでなんていない
それなのに 僕は彷徨っている

そんな星の下 僕は生まれた
占い師は 口を揃えて言う
嘘でも 信じそうになっている

僕は一箇所に とどまれない
否応もなく 何かが起こる
そうして僕は 次の地へ向かう

本当に 望んでなんていない
仕方なしに 僕は流浪し続ける

「冷凍」

私は想いを凍らせて、粉々に砕きました。それが今の私には、必要なことだから。

砕け散った欠片たちは、冷たい塊でした。

私の想いは熱すぎて、処理に困りました。

それは今の私には、邪魔なものだから。

私の意思に関係もなく、溢れそうでした。

私は想いを凍らせて、粉々に砕きました。

それで今の私は、楽になれるのだから。

尖った欠片たちは、体を突き刺しました。

辛く苦しくても、耐えようと思いました。

「論難」

いい加減にしてくれ 絡まないでくれ

何で君はいつも 突っかかってくるんだ
喧嘩をふっかけるのが 楽しいのかい
僕の考えと君の考え 違ってもいいだろ

君に付き合う気は 僕には全くないんだ
白黒をつけるなんて 意味あるのかい
元々からして はっきり分らないだろ

僕をわざわざ怒らせて 何がしたいんだ
いったい 何の得があるというんだい
僕の論と君の論 接点じたいがないだろ

いい加減にしてくれ ほっといてくれ

『ワ行』

「私」

本当の私なんて 貴方も知らない

いつも 作り笑いで通している

心から笑うことを 忘れてしまった

繰り返しすることで 真実にもなる

偽りの現実には 疲れ果ててしまった

泣くことさえ 出来ないでいる

涙を見せないように 努力してきた

誰も彼もが 嘘で着飾っている

虚飾の世界を 抜け出せなくなった

貴方だけは 私を分かって欲しい

「を廻」

どうしても 上手くは詠めない
君のように 上手くは詠えない

背伸びして 私は詠うようになった
君に追いつきたくて 詠み出した
本当の心なんて 理解してもいない

一生懸命に 君を見習おうと思った
君の詠う声に ただ聞き惚れてた
を廻なんて 私には上手に使えない

君のように 詠吟はできない
どうしても を廻を真似できない

「ンジャメナ」

地図で見つけた 見知らぬ国の町

暇に任せて 地図帳を眺めてた
アフリカ大陸の チャドという国
その国の首都 僕の目が留まる

ンジャメナ 変わった名だった
日本人ならば 馴染みのない響き
言葉の違い 僕は改めて考える

いつの日か 行きたいと思つた
現地の言葉で 聞いてみたい名前
実現せぬ夢 僕は素直に諦める

空想なら 何時だって行けるから

著者紹介

恵 (めぐみ)

1972年(昭和47年)兵庫県尼崎市生まれ、現在も在住。自らの詩を「虚構詩」と名付け、反主流派を自認。著書は書籍で『永遠の過去』(彩図社・ぶんりき文庫)、『追憶～五歳の距離～』(レーヴック)などがある。

言葉辞典

2004年6月10日初版発行

2004年6月25日二版発行

著者 恵

発行所 MEGUMI'S HOME

<http://freepage.gaiax.com/home/megumi/>
